

# LANの「フォルダー共有」でファイルを連携

## ●まずはワークグループ名などを確認しておく

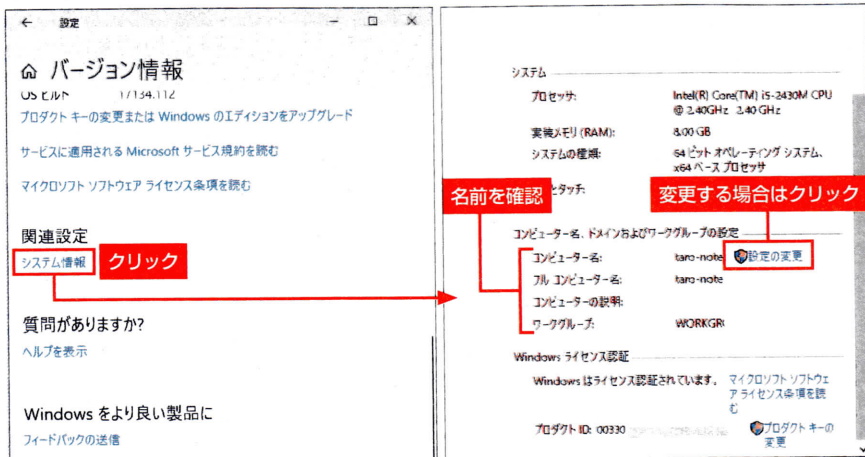


図1 設定アプリで「システム」→「バージョン情報」画面にある「システム情報」をクリック(左)。開く画面で「コンピューター名」「ワークグループ」を確認する(右)。ワークグループなどを変更するには、「設定の変更」を選ぶ

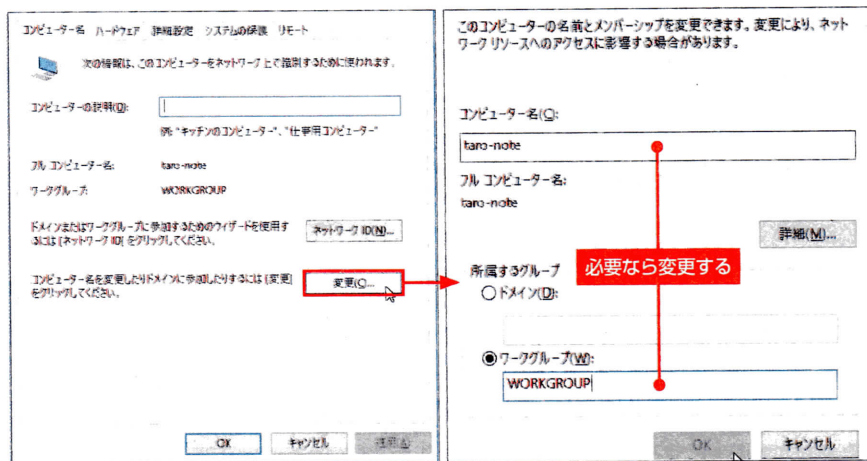


図2 図1右で「設定の変更」を選ぶと「システムのプロパティ」が表示されるので、「変更」をクリック(左)。開く画面で名前を変更できる(右)

## ●フォルダー共有に必要な設定を行う

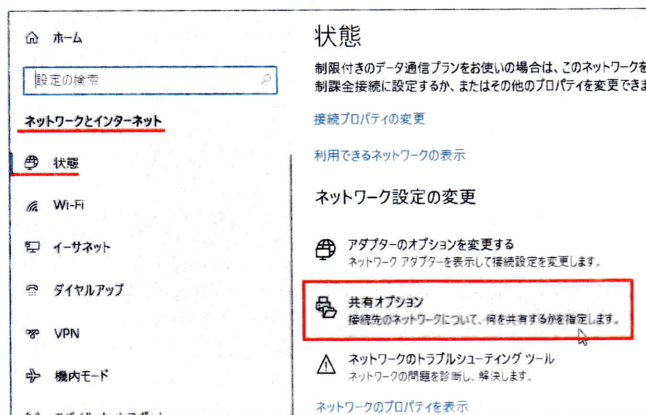


図3 設定アプリの「ネットワークとインターネット」→「状態」画面を開き、「共有オプション」を選ぶ

最後に紹介する「フォルダー共有」は、Windows 7以前から利用されている定番の機能だ。同じLANに接続している複数のパソコンで、いずれかのパソコンをサーバーとして、共有のフォルダーを指定する。するとほかのパソコンからそのフォルダーへアクセスできる。この共有フォルダーを介して、ファイルをやり取りするわけだ。

今回は、手軽に共有フォルダーを利用するための簡易な共有設定での方法を紹介する。パスワードなしに共有フォルダーを利用できるので簡単だが、セキュリティはやや弱い。自宅内のLANなど、第三者が勝手に利用することのないネットワークでの利用を前提としよう。

なお、従来のWindowsにあった、フォルダー共有を簡単に行う「ホームグループ」機能は、Windows 10のバージョン1803 (April 2018 Update)で削除された。ホームグループを利用していた場合、最新版のWindowsではフォルダー共有機能に移行する必要がある。

## まずは必要な設定を行う

フォルダーの共有を行うには、LANに接続したパソコンで、いくつかの設定が必要になる。まずは、「コンピューター名」「ワークグループ」の確認だ。コンピューター名はパソコンを識別するための名称であり、好きな名前を付けられる。ワークグループは、共有フォルダーを利用するパソコンで全て同じ名前にしておく必要がある。初期設定では

「WORKGROUP」となっており、変更せずに使ってよい(図1、図2)。

次に、フォルダー共有機能をオンにする。設定アプリを開き、「ネットワークとインターネット」を選択。開く画面で「状態」を表示し、「共有オプション」をクリックする(図3)。これで設定画面が開く。

まず「プライベート(現在のプロファイル)」をクリックし、表示される項目で「ネットワーク探索を有効にする」「ファイルとプリンターの共有を有効にする」をチェックする(図4)。次に「すべてのネットワーク」をクリックして項目を表示し、「パスワード保護共有を無効にする」を選ぶ(図5)。

これで準備は完了だが、図4で現在のプロファイルが「ゲストまたはパブリック」になっている場合は、第三者からのアクセスが可能なネットワークなので、共有機能の利用はできない。

自宅内など閉じた環境のLANで使っているのにパブリックになっている場合は、図3の「状態」画面で、「接続プロパティの変更」をクリックする。すると、現在接続しているネットワークの設定画面が表示されるので、「ネットワークプロファイル」の「プライベート」を選択して変更しておこう(図6)。

## フォルダーを共有する

準備を終えたら、実際にフォルダーを共有してみよう。共有用のフォルダーは分かりやすいように、Dドライブなどの直下を作成しておくのがお勧めだ。

Windows 10のバージョン1709

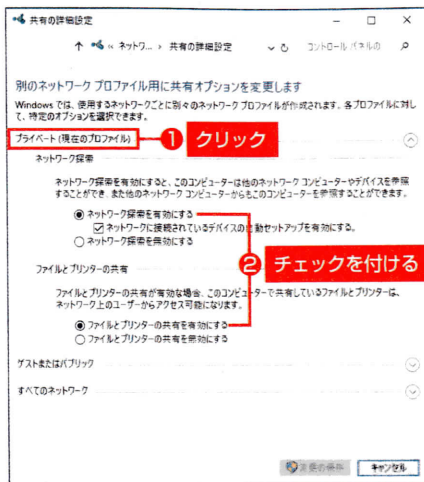


図4 開く画面で「プライベート(現在のプロファイル)」をクリックし、「ネットワーク探索を有効にする」「ファイルとプリンターの共有を有効にする」にチェックを付ける

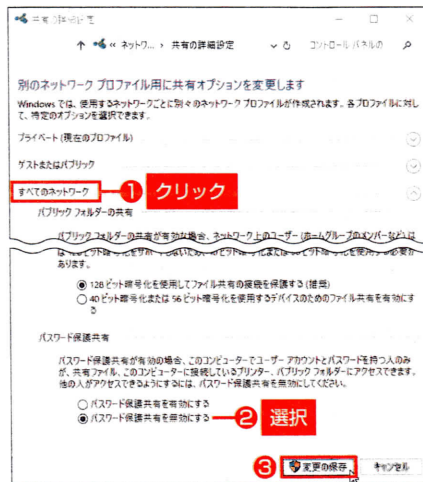


図5 次に「すべてのネットワーク」をクリックして項目を表示し、「パスワード保護共有を無効にする」を選ぶ。最後に「変更の保存」をクリックする

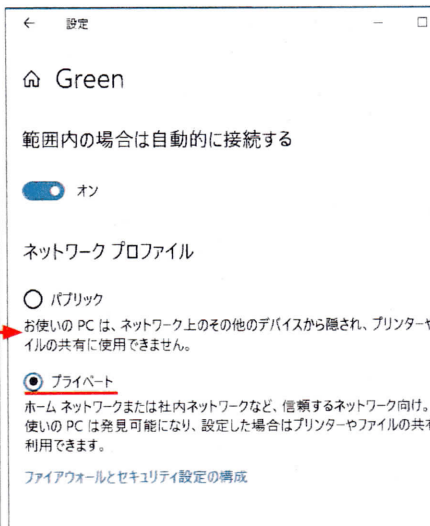
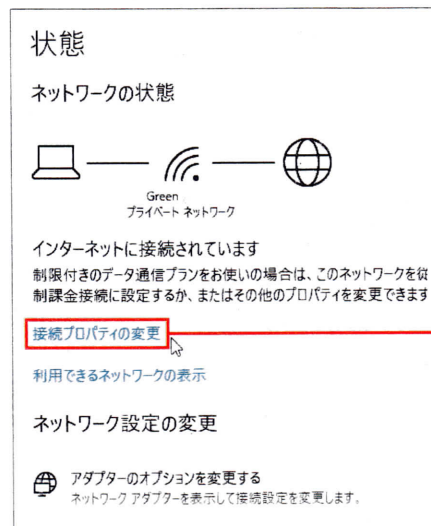


図6 設定アプリで「ネットワークとインターネット」→「状態」画面を開き、「接続プロパティの変更」を選択(左)。開く画面で「プライベート」を選ぶ(右)

## 共有するフォルダーを指定する

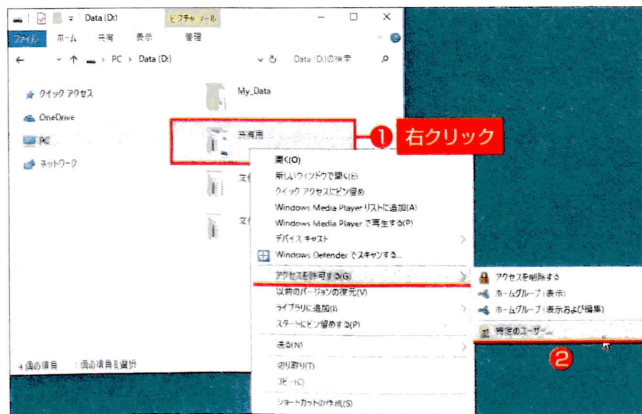


図7 Dドライブの直下などに共有用のフォルダーを作成し、右クリックのメニューから「アクセスを許可する」→「特定のユーザー」を選ぶ

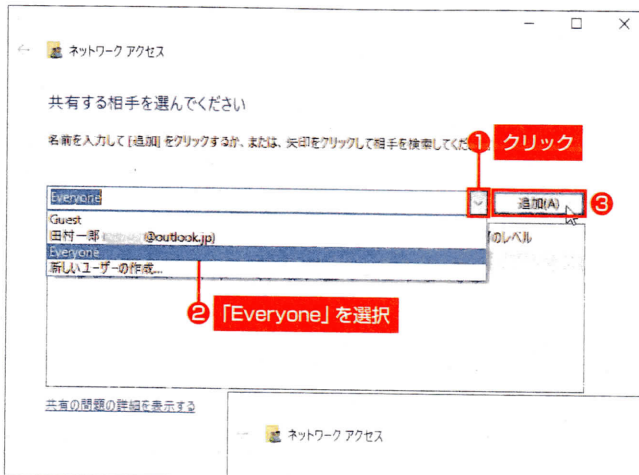


図8 「ネットワークアクセス」画面で、対象ユーザーの一覧から「Everyone」を選び、「追加」をクリックする

(Fall Creators Update) 以降なら、共有したいフォルダーを右クリックし、開くメニューから「アクセスを許可する」→「特定のユーザー」を選ぶ(図7)。それより前のバージョンのWindowsなら、右クリックメニューの「共有」→「特定のユーザー」を選ぶ。

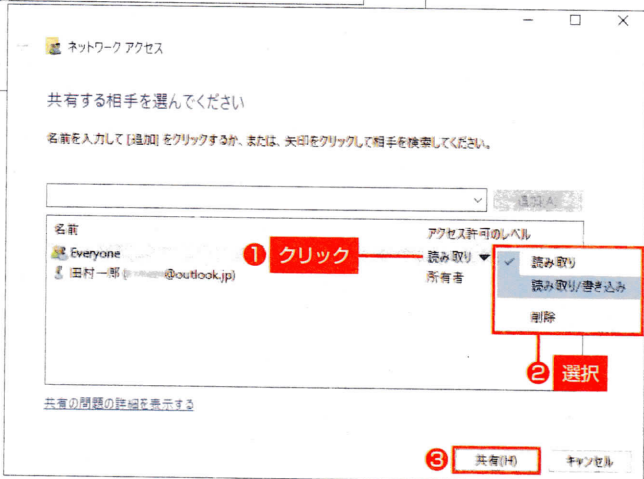
これで「ネットワークアクセス」画面が開くので、フォルダーのアクセス権を設定する。まず上の入力欄の右にあるボタンをクリックし、全てのユーザーを意味する「Everyone」を一覧から選んで、「追加」ボタンをクリックする(図8)。これで、下の欄に「Everyone」が追加される。

次に、追加した「Everyone」をクリックし、右にある「アクセス許可のレベル」を指定する。「読み取り」にすると、ほかのパソコンからはフォルダー内のファイルを読み取れるが、書き込みはできない。「読み取り/書き込み」を選ぶと、どちらも可能になる。最後に「共有」ボタンをクリックする(図9)。

## 共有フォルダーを利用する

別のパソコンから、共有フォルダーを利用してみよう。エクスプローラーを開き、左の項目一覧にある「ネットワーク」を選ぶと、右にサーバーの一覧が表示される。共有フォルダーを設定したパソコンを開くと、共有フォルダーが表示される(図10)。あとは、通常のフォルダーのように、ファイルのコピーなどを行えばよい。なお図9で「読み取り」権限に設定した場合、例えばファイルを共有フォルダーにコピーしようとすると、「……アクセスは拒否されま

図9 「Everyone」が下の欄に追加されるので、右にある「アクセス許可のレベル」をクリックし、「読み取り/書き込み」などのアクセス権を設定する。最後に「共有」をクリックする



## 共有フォルダーをほかのパソコンから利用する



図10 エクスプローラー画面の左の一覧から「ネットワーク」を選ぶと、サーバーとなっているパソコンの一覧が表示されるので、相手をダブルクリック(左)。共有フォルダーが表示される(右)

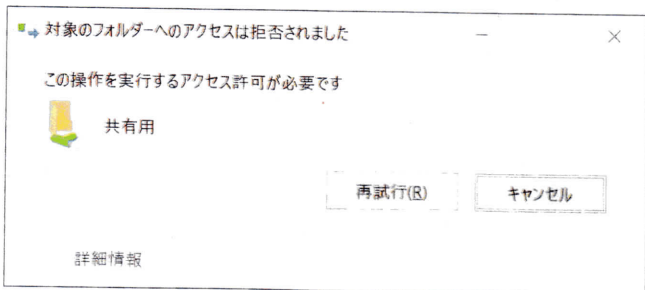


図11 図9でアクセス権を「読み取り」にしている場合、共有フォルダーにファイルを保存しようとする、拒否のメッセージが表示される

した」とメッセージが表示され、コピーはできない(図11)。

共有フォルダーが深い階層にある場合、利用するたびに「ネットワーク」からたどるのは面倒だろう。そのような場合は、「ドライブの割り当て」機能を使うとよい。これは、共有フォルダーを、Cドライブなどの内蔵ストレージのように扱うための機能だ。

まず共有フォルダーを右クリックして「ネットワークドライブの割り当て」を選ぶ(図12)。開く画面で、割り当てたいドライブ文字(ここでは「Z」)を選び、「サインイン時に再接続する」をチェックして「完了」ボタンをクリックする。エクスプローラーの「PC」の下に、「Zドライブ」として共有フォルダーが表示されるので、すぐに開ける(図13)。

共有フォルダーはスマホからも利用できる。内蔵ストレージやSDメモリーカード内のファイルを一覧したりコピーしたりする「ファイラー」と呼ばれるジャンルのアプリがある。その中には、LAN内の共有フォルダーに対応しているものもあるので、それを利用すればよい。Android用なら「ファイルマネージャー」、iOS用なら「Documents by Readdle」などのアプリがある。

「ファイルマネージャー」の場合、Wi-Fiと同じLAN上のサーバー名一覧が表示されるので、相手を選択。表示されるユーザー名とパスワードを入力する画面で、「匿名」をチェックして「OK」をタップすると、共有フォルダーが表示される。あとは、コピーなどの操作でファイルをやり取りできる(図14)。

## ●共有フォルダーへ簡単にアクセス

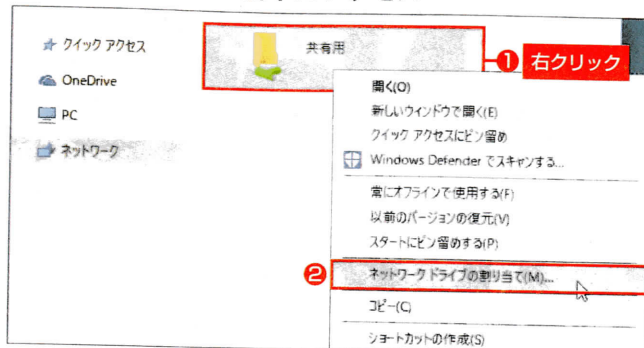


図12 共有フォルダーを右クリックし、開くメニューの「ネットワークドライブの割り当て」を選ぶ

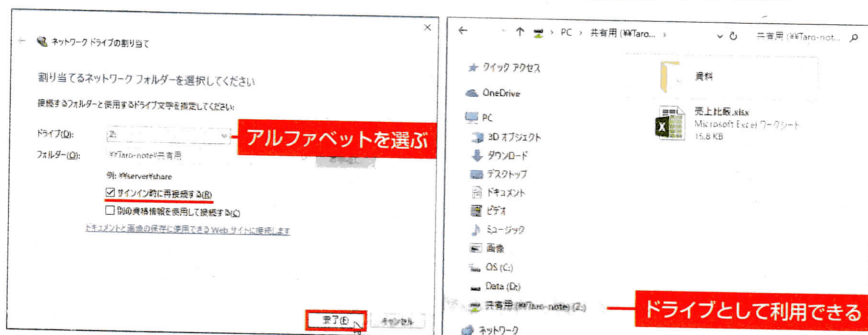


図13 開く画面で共有フォルダーに割り当てたいアルファベット(ドライブ文字、ここでは「Z」)を指定し、「サインイン時に再接続する」にチェックを付けて「完了」を押す(左)。これで共有フォルダーが、Zドライブとして利用できる(右)

## ●Androidスマホからも利用できる

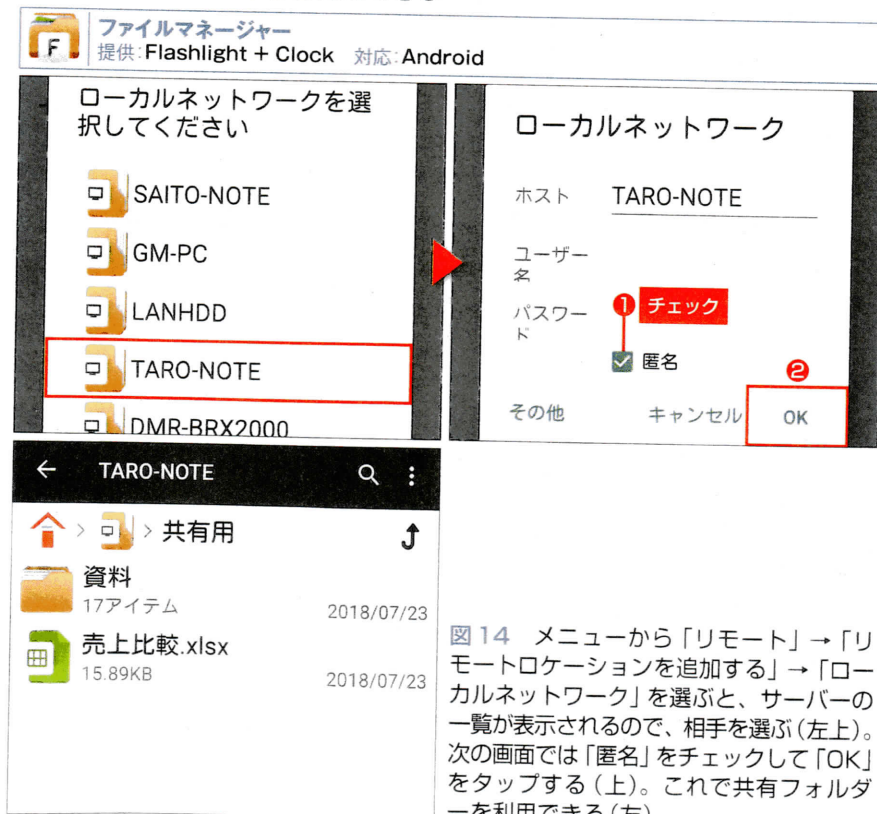


図14 メニューから「リモート」→「リモートロケーションを追加する」→「ローカルネットワーク」を選ぶと、サーバーの一覧が表示されるので、相手を選ぶ(左上)。次の画面では「匿名」をチェックして「OK」をタップする(上)。これで共有フォルダーを利用できる(左)